

精神保健福祉援助演習

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神保健福祉援助技術の体験的学習の場として1年を通じて学習していく。精神疾患をかかえながら生きるということはどういうことか、精神保健福祉にかかる資源、ケースの見方・聞き方、当事者や家族への対し方、技術としての面接、グループの運営の仕方、NPO法人や地域福祉の展開の意義などミクロからマクロへの展開を体験的に伝える場とすることを目的とする。

【授業の展開計画】

1年間を、①利用者理解のための基本的態度、②援助技術の習得、③精神保健福祉をとりまく社会資源の学習、④精神保健福祉-現在と未来に分ける。それぞれの中で具体的な講義・活動内容について説明する。

【履修上の注意事項】

精神保健福祉援助技術演習は、講義で習得した内容を体験的・具体的に学習するためのゼミである。従ってその履修に際しては、少なくとも精神医学、精神保健福祉論、精神保健福祉援助技術総論および各論の履修を終了しておくことを条件とする。

【評価方法】

評価は、1)ゼミ活動（ゼミのなかでのディスカッションを含む）への参加態度、2)出席、3)レポート・課題の提出、4)その他にもとづき行っていく。

【テキスト】

講義開始時にテキストについては説明する。

【参考文献】

精神保健福祉援助実習

担当教員 知名 孝

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 実験実習

単位数 9

【授業のねらい】

本演習科目のねらいのひとつは実習に望むにあたっての基本的な態度、配属実習先に関する学習、必要とされる予備知識を獲得すること。ふたつめに、実習期間中配属先での実習体験をサポートしそれをプロセスしていく作業。実習の体験をもとに、自らが何を学び、自らの中でどんな変化があったのかを見つめなおす作業が必要となる。これらを通して、実習という現場学習をより豊かな学習体験として支援していくのがこの授業の主な目的である。実習体験から「学生としての語り」を創造する能力を培っていききたい。

【授業の展開計画】

通年の本演習は4つのセクションに分かれている。

まずは、前期部分の実習前学習。4月に配属先が決まり、その配属先に関しての学習、実習に対しての心構え、必要な基礎知識の復習、そして実習計画や目標の設定などを行う。

2つ目のセクションが、実習中に実習勤務時間を避ける時間帯を設定し、ゼミでの振り返りを行いながら実習を続けていく。その際に学生それぞれが開始した実習体験の点検、見直し、サポートなどを行う。

3つ目のセクションが、実習終了後の学習。実習の振り返り、実習後の報告と報告書の作成。そして国家試験に向けてのサポートを行う。

4つ目のセクションは、前期および後期を通じてのいろいろな時間外のゼミ活動がある。まず精神保健福祉セミナーという形式で、精神保健福祉およびその関連領域についての講演会・ワークショップを開催する。更にオリエンテーション、実習報告発表会、事前学習のための配属先訪問、その他時間外の実習前後の学習を行うことになる。

【履修上の注意事項】

本演習は、精神保健福祉実習を前提としている。そのためには、精神保健福祉援助演習のとその履修に必要な科目を既に履修済みである必要がある。更に、実習の準備に伴うオリエンテーション、通常時間帯以外の講義やワークショップへの出席が義務付けられる。これらの参加がなされない場合は、実習を取りやめにするのもあるので、履修に当たってはこれらゼミ活動への参加のための時間の確保を十分考慮すること。

【評価方法】

いくつかの項目を評価の対象とする。まず出席およびディスカッションその他ゼミ活動への参加状況。次に、前期に作成する実習計画。3番目に実習中の経験に対する学びの姿勢。4番目に実習後の実習体験の振り返りと実習報告書。5番目に実習前後の講義やワークショップなどへの参加状況。最後に実習配属先からの評価。これらをトータルに判断して評価していく。

【テキスト】

テキストおよび参考文献に関しては、本演習開始後に詳細を説明する。

【参考文献】

テキストおよび参考文献に関しては、本演習開始後に詳細を説明する。